

No. 395【2020年2月21日配信】

青森駅の設置場所が決まるまで(担当:村上)

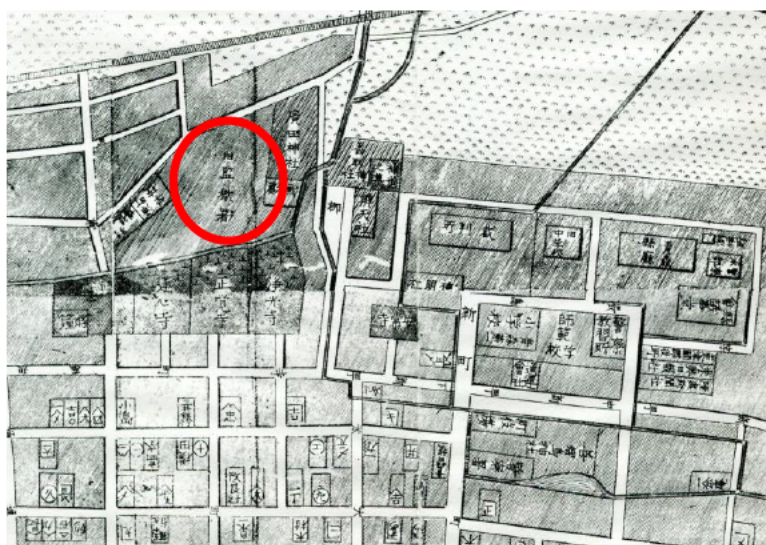
こんにちは。嘱託員の村上です。

歴史資料室では現在、館内展示「青森駅とともにー現駅舎誕生から60年ー」を行っており、初代駅舎誕生から現在までの約130年の駅舎とまちの歴史を取り上げています。

さて、青森駅は明治24年(1891)9月1日、青森町(現青森市)の安方町に開設されますが、この場所への設置が決定する前には、複数の場所が候補地として挙げられていました。

『ものがたり東北本線史』(1971年 日本国有鉄道仙台駐在理事室)などによれば、当初は現在の港町附近に駅を設置する案が有力でしたが、岩手県知事の石井省一郎、岩手県属(県職員)の大森直輔、青森町の大坂金助らが周辺の土地を買い占めたことにより地価が高騰したため、日本鉄道会社を買収を断念したといわれています。このことは「あおり歴史トリビア」第348号でもご紹介しましたね。

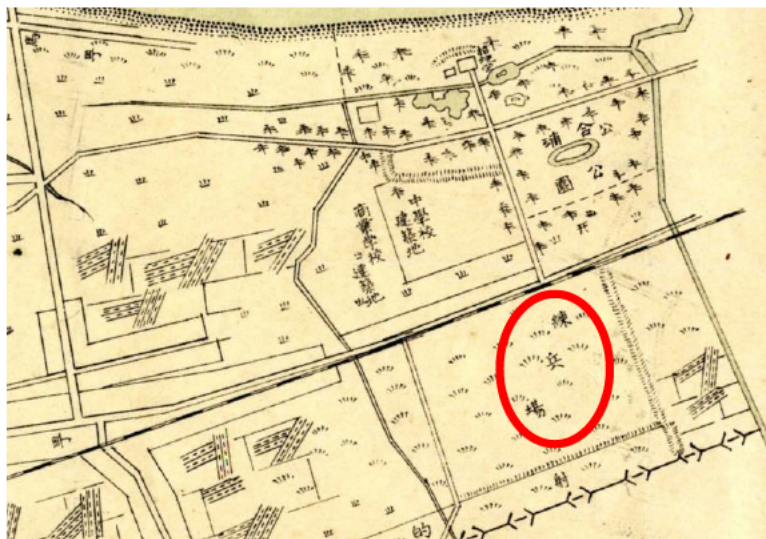
その後、明治22年には県会(県議会)で青森駅の設置場所の問題が取り上げられました。このとき、候補地として挙げられたのは青森監獄の敷地(現市役所本庁舎の位置)でした。『東奥日報』によると、県会では青森監獄を別の場所へ移転し、その跡地を駅の用地として日本鉄道会社に売却することを検討していたようです。



青森監獄の位置

(明治25年「青森実地明細絵図」〈『青森市史』第5巻附図〉)

しかし、これで駅の設置場所が決定したわけではありませんでした。明治23年8月7日、佐和県知事が青森町の各地区の協議員を集め、駅の設置場所に関する諮問会を開いているのです。『東奥日報』によると、ある人物から駅の用地として練兵場(現浪打小学校附近にありました)の近くにある所有地の一部を寄付したいという申し出があったため、住民の意見を聞くことになったといえます。



練兵場の位置
(明治44年「青森市全図」、歴史資料室蔵)

諮問会ではおよそ20人が意見を述べ、その3分の2は町の中央に近い青森監獄跡に駅を設置することに賛成するものでした。ところが、練兵場近くに駅を設置したいと考える人々は監獄附近の住民を訪ね、土地を売るならもっと高い値段で売るべきだと主張して回りました。すると、土地の売却を了承していた住民たちが高い値段を提示するようになり、買収は困難になってしまいました。こうして、青森監獄跡へ駅を設置する計画は頓挫したのです。

そしてこのあと、港に近い安方町が駅の設置場所に適していると判断され、建設場所に選ばれるのです。



青森駅の初代駅舎
(『目で見える青森の歴史』より)

※今回の内容は『東奥日報』明治22年12月5日付、明治23年8月8日付などを参考にしました。